平成30年度　甲佐町立甲佐小学校　学校便り

清　流

目指す学校像
子どもの笑顔が輝き
勢いのある学校

No. 23（H30. 10. 16発行）文責 校長 福田雅也

10年～20年後に子どもたちが就いている職業は？

実は、もうすぐ90才になろうとしている私の実父がまだ車の運転をしています。そんな父に、先日あるきっかけで、「もう、車の運転はやめなっせ」と少し強く話をしました。「自由に外出ができなくなる」と肩を落としている父を見ながら、「自動運転の車が間に合えば良かったのに…」と少し切なく感じた瞬間でした。

父のような立場であれば自動運転は助かりますし、その恩恵を受ける人々は多く存在すると思います。しかし、自動運転が導入されたら職を失う人がいるのも事実です。マスコミ等では「あと10年でなくなる職業」というような内容が話題になっています。その一つに、アメリカ、オックスフォード大学で人工知能（AI）等の研究を行っているマイケル・A・オズボーン准教授が発表された内容があります。アメリカ労働省のデータに基づいて、702の職種が今後どれだけコンピューター技術によって自動化されるかを分析してあるそうです。その結果、47％の職業が、今後、10年～20年程度で自動化される可能性が高いという結論になったというのです。（具体的な職業も発表されていますが、この紙面での掲載は控えます。ネット等に情報がありますので、興味がある方はご覧ください。）

必然的に、「生き残る職業」も洗い出されることになったのですが、それは、次のような職業です。

・レクリエーションセラピスト　・最前線のメカニック、修理工　・緊急事態の管理監督者
・メンタルヘルスと薬物利用者サポート　・聴覚医療従事者　・作業療法士　・義肢装具士　・ヘルスケアソーシャルワーカー　・口腔外科　・消防監督者　・栄養士　・施設管理者　・振り付け師　・セールスエンジニア（技術営業）　・内科医と外科医　・指導（教育）コーディネーター　・心理学者
・警察と探偵　・歯科医師　・小学校教員

もちろん、これらの内容は、一人の研究者の発表です。具体的に見ても、職業名が細かすぎる気がしますし、「小学校教員」は示されていますが、「保育士」や「中高や大学の教員」は示されていない等、鵜呑みにすべき内容ではないかもしれません。しかし、興味深い内容であることは間違いありません。そこで「生き残る職業」を見てみると、大まかな傾向があり、次の四つに大別することができるように感じます。「心身の健康や医療に関する仕事、（教育もここに含めた方がいいかもしれません）」これらの職業は、専門的な知識技能と共に、相手が人であるだけに相手の気持ちを考えることができるコミュニケーション能力が重要と言えそうです。「消防や警察、（教育）等の公的な職業」これらの職業は、専門的な知識技能やコミュニケーション能力とともに、倫理観や使命感、郷土愛が必要です。「技術者」この職業は、ICT技術を中心とした先進的な知識技能が求められるでしょう。そして「管理的な職」この職業は、総合的な人としての人間力が必要でしょう。

このように考えてみると、本校や本町が取り組んでいる教育の大切さが見えてくるように思います。本町では「ICT活用教育」「道徳教育」「（小学校）英語教育」「コミュニティ・スクール」「小中一貫教育」等に力を入れ取り組んでいます。「ICT活用教育」は学力向上が本来の目的ですが、ICT活用能力自体も高めようとしています。「道徳教育」は豊かな心の育成を図ることを目的としながら、コミュニケーション能力や倫理観・使命感の育成も期待できる分野です。「（小学校）英語教育」は、英語が話せるグローバルな人材の育成が主目的ですが、同時にコミュニケーション能力自体も当然高まります。「コミュニティ・スクール」「小中一貫教育」にも本来の目的はありますが、「ふるさと甲佐」を愛する心を育てることができる分野であることは間違いありません。

今後10年～20年といえば、今、私たちが育てている子どもたちが職業に就く頃です。私たちは、このような社会の大きな変化を見据えながらも、同時にしっかりと自分たちの足元を見て、どのような職業が残るのかを心配するのではなく、どのような職業に就いても対応できる力をもった子どもたちを育てていくことが大切なのでしょう。